

平成27年

目黒区教育委員会

第28回定例会会議録

(平成27年7月28日開催)

第28回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成27年7月28日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会委員長	木村 肇
	教育委員会委員長職務代理者	小村 恵子
	教育委員会委員	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会教育長	尾崎 富雄

出席職員	教育次長	関根 義孝
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井 司
	学校運営課長	佐藤 欣哉
	学校施設計画課長	照井 美奈子
	教育指導課長	佐伯 英徳
	めぐろ学校サポートセンター長	増田 武
	統括指導主事	細田 真司
	統括指導主事	和田 孝
	生涯学習課長	金元 伸太郎
	八雲中央図書館長	大迫 忠義

書記		鈴木 敏由起
		山東 隆博

(午前9時30分開会)

- 委員長        それでは、第28回目黒区教育委員会定例会を開会します。  
      本日の欠席職員は教職員・教育活動課長です。  
      署名委員は笹尾委員です。  
      ただいま、傍聴の申請がありましたのでお諮りします。傍聴を  
      許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 委員長        それでは、傍聴を許可することといたします。  
      なお、以後の傍聴の申請はその都度許可することとし、委員の  
      皆様にはお伝えすることはいたしません。  
      それでは日程第1を議題とします。

(日程第1        平成28年度使用目黒区立中学校教科用図書採択について  
      (協議事項) )

- 説明員        (資料により説明)  
○委員長        ありがとうございます。  
      ただ今説明があったとおり、本日は英語、技術・家庭、保健体  
      育の4種について協議いたします。  
      手順としまして、各委員の皆様は数社に絞っていただき、8月  
      4日の本委員会で上位数社を検討して、1社に絞るという手順で  
      いきたいと思っております。  
      それでは、皆さんのお手元にあります学校調査報告書と、調査  
      研究委員会報告書を事前に読んできていただいていると思いま  
      す。その結果を踏まえまして、一人一人の委員にお考えを伺いた  
      いと思っております。  
      なお、進行の都合上、会社は実社名ではなく呼称欄の記号で話  
      を進めていきたいと思っております。  
      それでは、まず英語の協議に入りたいと思っております。
- 委員        英語ですけれども、外国語ということで前回説明があったよう  
      に、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーション  
      を図ろうとする態度の育成を図り、聞く、話す、読む、書くとい  
      うコミュニケーション能力の基礎を養うということがこの学科

の習得の目標ということになると思います。その観点で各教科書を拝見させていただきました。

私は、6社のうち3社に一応絞ってまいりました。一つはA社です。これは、聞く、話す、読む、書くという四つを非常にバランスよく取り上げているということと、構成がスターティングアウト、ダイアログ、リーダーシンクとアクティビティー、デイリーシーンと、とても流れがわかりやすい構成になっていると思いました。それから、デジタル版があるということ、それから教科書の体裁がワイド版であるということも評価いたしました。

続いてB社です。B社は、「マイプロジェクト」という特徴的な構成になっていると思いました。この会社もワイド版を採用しているということで、使いやすいということも評価いたしました。

3社目が、X社です。これはデジタル版の教科書がワイド版であるということと、バランスがよくできているということと、調査報告書においても非常に評価が高く、小学校からの流れをうまくつかんでいるなと思いました。

ということで、A社、B社、X社に絞ってまいりました。

以上です。

#### ○委員

私は、3社に絞らせていただきました。A社、X社、C社の3社です。

A社ですけれども、A社は、内容が非常に生徒たちに理解されやすいという考え方が一貫しているというような印象を受けました。私もやはり日常的な題材を取り上げていて、生徒が興味関心を引くということに重点を置かれているような印象を受けました。ここが非常によかったということと、それからやはり英語ということで、小学校時代からの負担感といいますか、外国語に取り組む生徒の負担感を与えないというような分量にある程度配慮されているところも評価できたと思います。

あと、英語の歌というのが20ページに載っておりまして、これは「シング」と「ハローグッドバイ」ということで非常に、これは生徒たちの親の世代もある程度意識しているのかなというようなことも感じたのですけれども、この解説も、他社のに比べますと丁寧で高い評価をいたしました。

次はX社ですけれども、X社は、これもやはり編成が非常にコンパクトというか、わかりやすい編成の仕方をされていてよかったと思います。調査報告書の中にありますが、文章の構成のどこ

ろですが、要約が広いということと、それからやはり苦手な生徒にも安心感を与えるという配慮がかなりされているような印象を受けました。やはり外国語に対する苦手意識というのを払拭する意味でもこういった配慮がありがたいと思いました。

もう1社は、C社でございます。C社は、これも調査報告書にありますが、題材が多岐に富んでいるというところが私も評価できたと思います。環境、人権、異文化理解、世界遺産といったようなところに、これは当然のことながらほかの教科でも勉強する内容でありますので、そういったものとこの英語というものを結びつけて興味を深めていくというような配慮がされていると思いました。

以上で3社ということになります。

#### ○委員

やはり英語は、先ほどから重複しますけれども、外国語を通じて言語や文化に対する理解を深めることや、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのバランスと、基礎的、基本的な知識、技能を習得させる工夫、それからコミュニケーション能力の育成という点を考慮いたしました。私も3社にしました。A社とC社とX社です。

A社に関しましては、聞く、話す、読む、書くの4技能がマークになっていてバランスがとれているということと、ユニットが基礎の確認と定着、それからデイリーシーンが場面別のコミュニケーション活動、それからプレゼンテーションがテーマ別の自己表現もバランスよく分かれていて生徒にもわかりやすく十分な配慮がなされているということと、日常的で実用的な観点から4技能へアプローチしているということがよいと思いました。

それから、考えさせる題材や生徒の興味関心を引く題材が幅広く取り上げられていて、生徒にとって日常的な題材を挙げていることが興味関心を引くというような工夫がなされているということもよいと思いました。

それから、C社に関しましては、單元ごとに基礎練習として聞く、話す、書くの活動が設定されているのですが、ポイントをリスニングで理解し、スピーキングで練習、その内容を自己表現としてライティングに結びつけるのがよいという点が特に報告書で評価が高かったかと思います。

それから、チェックアウトという文法に関してのページがあるんですけども、それも英文の構成を捉えやすく色別して

いまして、どの教科書でも色を分けているのがあったんですけども、一番見やすかったかと思えますし、生徒にとってわかりやすいという評価も多かったかと思えます。

それから、扱われている題材が多岐に富んでいて興味深いものが多いのがよいと思いました。

それから、X社に関しましては、やはり読む、書く、聞く、話すの4技能がバランスよく取り入れられているということと、スモールステップでやりとり形式の話す力が育てられるような工夫がなされているのがよいと思いました。また、この本も生徒の知的興味や関心を満たす多様な題材が取り扱われていることもよいと思いました。

以上です。

○委員

それでは、私も3社に絞り込んでおります。X社、B社、A社ですね。

基本的な視点としましては、まず学習指導要領にまた戻るわけですが、大きく二つありまして、一つは聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、これを総合的に行う学習活動を充実させていくという点に工夫がなされているかどうかという点が第1番目のポイントです。

それから、2番目のポイントとしましては、今回の要領改訂を踏まえまして、外国語で発信する内容の題材の例として我が国の伝統文化ですとか、自然科学といったものが追記されているかどうかといった観点から絞り込んでまいりました。

まず、X社ですが、大きく3点ありますが、1点目は、聞く、話す、読む、書く、この四つの技能のバランスのよさという点について着目いたしました。また、発声では聞き取りのねらいというものをしっかりと捉えており、スモールステップによるやりとりの形で話す力を育む、そういった工夫がなされている点が1点目です。

それから、X社の2点目としましては、フランスでの日本漫画ブーム、こういったものを取り入れたり、今日話題となっており、テニスプレーヤーの錦織選手、あるいは世界遺産の紹介等、生徒の知的な興味や関心を満たす、そういった多彩な題材が扱われ、工夫されている点について着目しております。

3点目は、車椅子バスケットですとか、あるいはキング牧師、それから環境面では小笠原諸島のウミガメですとか、人権、福祉、

日本文化の紹介等、幅広く文化を取り扱っているという点に着目してX社をまず絞っております。

続いて、B社でございますけれども、全学年を通じまして聞く、話す、読む、書く、この4技能、これはX社と同様でございますけれども、非常にバランスよく掲載がなされておりました、反復学習をするに当たっても反復学習がしやすいような、そういった配慮がなされている点について着目しております。

それから、B社の2点目ですけれども、さきの委員の発言にもありましたけれども、「マイプロジェクト」では、学習をした表現を使ったコミュニケーションですとかプレゼンテーションの活用が設定されておりました、生徒が繰り返し活動に取り組む中で、自然に発話といいますか、スピーチ等につながる、そういった工夫がなされている点について着目しました。

B社の3点目は、これもX社と同様ですけれども、環境や福祉、人権、日本文化の紹介等、幅広い分野にわたった題材設定になっている点が着目したところでございます。そういった意味で、B社ということでございます。

最後に、A社でございますけれども、これはただいま申しあげましたX社、B社とほぼ同様でございますけれども、基本的には学習指導要領改訂の要点に沿った形で多岐にわたって工夫がなされています。

以上です。

#### ○委員

最後に、私ですけれども、私も3社候補に挙げました。まず最初は、B社でございます。B社は、自分がもしかして中学の生徒に指導するような立場になったらどうだろうという観点で見ると、教科書の中ではB社が一番実はいいかなと思ったんです。それと、このベーシックダイアログがあって、その後に「リッスンスピークトライ」というのがあるわけですが、このことをしっかりやってベーシック、これを覚えていただくとはかがもう自動的にできるという意味で、目標を生徒も持ちやすく、ああ、B社いいなということでもまず選ばせてもらいました。

それから、皆さんと同じX社です。これはやはり4技能のバランスが非常にとれているということと、やはりボキャブラリーが1, 200に厳選されているんですが、さらにそれが本当に最重要語、重要語と、どこから手をつけて覚えていったらいいとか、そういう目標が明確になっている。それから、時折見られるポイ

ントというのがいい指摘をしてくださっていて、これはすぐれているなど思いましたX社を選びました。

最後にF社を選ばせてもらいました。F社のいいところは、この各ページ構成がホップ、ステップ、ジャンプですごくわかりやすくなっているのと、最後に別冊で、これが問題あるかもしれませんが、別冊でエッセンシャルズというのがあって、本当はそれだけをしっかり理解していけばもう事が足りるかなというくらいエッセンスがまとまっていて、自分がちょっとやらせていただくと、このエッセンシャルのあるのもすぐれているかなと思ってF社を選ばせていただきました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、A社、B社、X社の3社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではA社、B社、X社を採択候補として絞り込んでいきたいと思しますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は技術について協議します。

○委員 技術は3社しかないの絞り込みは難しいんですけれども、一応2社に絞ってきました。

一つはA社です。A社は、技術で要求される材料と加工に関する技術、それからエネルギーの変化に関する技術、生物育成に関する技術、情報活用に関する技術の、この四つの分野について全体的に偏りが無い構成になっているということ、それから章立てがきちんと分かれていてわかりやすいということ、一口メモというような工夫がなされているというところ、それからデジタル教科書があるということで評価いたしました。

もう一つはC社です。これもデジタル教科書があるということと、先ほど申し上げた分野についても偏りのない記述量になっているということと、3年間継続して使用できる教科書としては非常によいというような評価がありましたので、この2社にいたしました。

○委員 私も一応2社に絞りましたが、どちらかというA社というのが有力かなと思っています。もう1社はC社です。

A社につきましては、技術を目指す生徒をふやすという観点か

ら、そういった方向で編集されている教科書を選びたいなというところを基本線としました。

まず、A社の内容で、これは全体的にかなりよく整理されているといたしますか、生徒が順を追って理解しやすいような、そういう構成が貫かれていると思います。ところどころに光るものがあるんですけども、私が印象に残りましたのが、43ページに製品にかかるコストという小さい表があるんですが、このコストの考え方、設計時、製作時、使用中、使用后という段階に応じてこういうコストがかかるんですよという説明がありました。これは我々が大人になっても非常にひっかかる場所でありまして、こういった意識を中学生の段階から情報として入れていただいているということに対しては大変敬意を表したいと思いました。

あと、SNS利用時の注意点といったものが207ページにありましたが、これも非常にコンパクトにまとめられているということで印象を受けました。

もう1社のC社であります、C社は見やすいと感じましたのが、14ページのところでPDCAをうまく説明されているなという印象を受けました。これは際立ったといたしますか、特に印象に残っております。

#### ○委員

技術科に関しましては、家庭科の分野も同様ですが、生活に必要な基礎的、基本的な知識及び技術の習得ができる工夫ですとか、生活と技術のかかわりについて理解を深め、創造する能力と実践的な態度を育てるという点に重きを置きました。また、特に生徒の生活実態に即した内容として、情報化社会の進化に伴う情報セキュリティやモラルに関しての内容がどのように触れられているかという点と、目黒区の生徒の実態に合った発展的な学習という面では、ICT教育という面でデジタル教科書の有無もかんがえました。それでA社とC社がよいと思いました。

A社に関しましては、報告書の中で基礎的内容と発展的な内容が生徒の生活実態に即しており、内容も扱いやすく配列されている、また図も多く使いやすいという評価が多かったかと思います。

それから、C社に関しましては、情報セキュリティやモラルについて3社とも触れているんですけども、一番丁寧に示されていたのと、人権や個人情報の保護、知的財産の保護についても学習できる内容になっていること、また参考というトピックで、犯罪に巻き込まれないためにどのようなことに注意したらよいかや、

コピーをしてよいかなどを示す著作物の利用を示すマークなどさまざまな情報が載っていて、また生徒の生活などの実態にも合っているところがよいと思いました。

以上です。

○委員

私も2社に絞り込んでおりますけれども、A社とC社です。

まず、C社の方を先に説明させていただきますけれども、大きく3点あります。1点目は、作業の手順が明確に示されておりまして、基礎的、基本的な知識、技能が習得できるよう、こういった点に工夫されている点が第1点目であります。

2点目としましては、情報セキュリティや情報モラルについて確実に学ぶ内容に構成がなされている点、それから人権ですとか個人情報保護、知的財産の保護等について学習が深まる内容になっている点が第2点目であります。

第3点目としましては、技術と社会環境に配慮した事項を多く取り上げられておりまして、生活と技術のかかわりの理解が深まる内容になっていると、こういった点について工夫されていることに着目をいたしました。

以上がC社です。

続いて、A社ですけれども、A社につきましては、材料と加工に関する技術、あるいは生物育成に関する技術では基礎技能がきちんと示されておりまして、生徒が自己の生活体験と関連づけて学習できる内容になっているなどと思いました。

それから、A社の2点目は、学習例がございましてけれども、この内容が日常生活に沿ったものになっているという点に着目をしております。こういったことを通じてものづくりの楽しさあるいは喜びを実感できる、そういった構成になっているのではないかと考えました。

それから、A社の3点目につきましては、情報社会の進展に伴う生活実態に即した内容となっているという点を評価したところでございます。

以上です。

○委員

私は、3社だったので1社に絞ってまいりました。私はC社を推薦したいと思います。3社ともに挿絵とか写真、記述はそれほど際立った差がないので、学校調査報告書と調査委員会の報告書を参考にさせてもらって検討いたしました。

そうすると、A社については非常に評判はよくて、読みやすい

とか内容が扱いやすいようになっている。ただ、判が大きくて扱いづらいという声も一部にございました。B社に関しては、デジタルのものが無いというのと、製図の描き方の説明が他の2社に比べてちょっと少ないのではないかという指摘もございまして、C社を選ばせてもらいました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、A社、C社の2社を採択候補とすることでよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではA社、C社を採択候補として絞り込んでいきたいと思っておりますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は家庭について協議します。

委員 こちらも3社でしたけれども、結果的に1社に絞りました。それはC社です。家庭科が取り扱う項目が四つあって、家族、家庭と子どもの成長、食生活と自立、生活と住生活と自立、身近な消費生活と環境という、この四つの部門についてC社はバランスが非常によくとれているというところを評価しました。

それと、女性、男女平等共同参画や子どもの権利などについての人権問題についての内容が充実しているということの評価いたしました。あと、細かいところ、各社ともよくできているんですけども、調理などのところが分野別にわかれている見やすいというところも評価いたしました。

○委員 私は2社を選ばせていただきました。A社とC社です。

A社は、特に食生活と自立というところで、ここを重点的に構成されているという印象を受けました。これは調査報告書でも述べられております。これが非常に印象に残りました。

それから、災害への対策というところと持続可能な社会の実現というところもそれなりに充実をしているというところも評価させていただきました。これがA社です。

それから、もう一つのC社はやはり調査報告書にあります身近な消費生活と環境というところがかなり重点的にといますか、力を入れられているというところが評価されました。それから、振り返り、特にこういう家庭などの問題につきましても、家庭に戻ってやはり振り返るといった作業をするときに、家族との会話

とか、そういうものが生まれるような、そういう工夫がされているのかなという印象を受けました。

ということで、A社とC社の2社選ばせていただきました。

○委員

家庭科に関しましても、生活に必要な基礎的、基本的な知識及び技術の習得と実践的な態度、それから四つの分野の内容構成と、生活における課題を解決するために言語などを用いて学習する言語学習なども考慮させていただきました。私はA社とC社がよいと思いました。

A社に関しましては、3社とも図解など見やすかったのですが、特に写真なども多く見やすい、また解説なども数ページにわたっているものもありとてもわかりやすいという、報告書の中で評価が高かったかと思います。特にミシンの解説ですとか料理の手順など、わかりやすい工夫がなされていてよいと思いました。それから、生活の課題と実践内容も多く、事例が多く書かれていて生徒が取り組みやすい内容になっていることもよいと思いました。

それから、C社に関しましては、3社の中で4分野のバランスがとれていることと、特に身近な消費生活と環境というところが一番ページ多く取り上げていて、事例を挙げてわかりやすく説明したり、身近なテーマや資料がたくさん載っていて基礎的知識を習得させる工夫や思考力を養う工夫があつてよいと思いました。

また、参考というトピックでは、さまざまな題材を取り上げているので興味関心を持たせる工夫もなされていると思いました。

以上です。

○委員

私も2社に絞り込んでまいりました。C社とA社ということです。

まず、C社に絞り込んだ理由は2点ありまして、1点目は、とかく生活経験や体験の機会が少ないと言われている現代の生徒にありましても、易しい題材を実習例として用いているという点について着目をいたしました。

C社の2点目は、男女平等共同参画ですとか、子どもの権利等の人権問題について非常に内容が充実しているということで、目黒区は教育課題に応じた学習活動が示されている、こういう点について着目をしたところです。

以上がC社です。

次に、A社でございますけれども、2点ありまして、1点目は、生活の課題と実践内容が非常に多く盛り込まれておりまして、生

徒にとりましては取り組みやすい、そういう内容になっている点について着目をいたしました。

それから、2点目は、やはり消費者教育と環境教育に関心が高い、目黒の生徒にとって生徒自身が工夫できる、そういう内容構成になっている点について着目をしました。

以上です。

○委員 私は1社に絞ってまいりました。C社でございます。

皆さんの意見がもう出尽くしてはいますけれども、やはり一番ポイントは、振り返りがあって学習したことの確認と定着に役に立つなというふうに感じました。また、デジタル教科書もあり、調理については実際にポイントがよく書かれている。枠で囲った参考というあれがかなり実際的で、それを読んでいるだけでもかなりの知識になるなど、これは付加価値でいいかなと思いました。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、A社、C社の2社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではA社、C社を採択候補として絞り込んでいきたいと思っておりますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。

次は保健体育について協議します。

○委員 保健体育ということで4社ありましたので、私のほうは2社に絞りました。

一つはA社です。A社は、小学校の内容と高校の学習内容というものが書かれていて、関連性が重視されているというところを評価しました。それから、保健体育の学習方法あるいは事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイのインタビューとか、学習方法の紹介というのも特徴的だなど思いました。全体的に内容も精選されていて、体育分野、保健分野、両方についてわかりやすい記述がなされていると思いました。

それから、もう一社はC社です。これは、同じようにディスカッション、ブレインストーミング、実習、課題学習という学習の方法についての説明をするページが設けられているというところがいいと思いました。あと、表記がわかりやすい、重要語句が太字になっていたり、あるいはコラムなども非常に興味を引くよう

な形でできていると思いました。

以上です。

○委員

私はA社、B社を選ばせていただきました。

余り差がないなとは思ったんですが、A社が特に印象に残ったところですけども、94ページに運動やスポーツが心身に及ぼす効果という章立てがありまして、体はエネルギー変換器だという表現がありました。これは、非常に世代を超えて共通の課題ではあるんだろうと思いますけれども、こういった表現がされているということで、これは家庭に帰って親御さんと話をするときにも題材になるようなテーマだなと思っています。それからB社ですが、章立てのタイトルで、運動やスポーツという表現ではなくて、スポーツという形で運動があえて章立ての表現の中から抜いているというところで、これはなぜかなというのが私にはわからなかったのですが、それ以外のところでかなり内容をよく表現されているという印象を受けましたので、A社とB社ということで選ばせていただきました。

○委員

体育科は、目標でもありますが、運動や健康、安全についての理解と運動の合理的な実践を通して健康の保持増進のための実践力を育成するという工夫がなされているかということと、集団的活動や身体表現などを通してコミュニケーション能力を育成することや、互いに話し合う活動などを通じて理論的思考力も育成することを重点に考慮いたしました。また、調査報告書の中で、3年間で学ぶ上での保健の分野と体育の分野を体現配列の工夫、それから語句の説明や図解、写真などの見やすさや資料の量など、より見やすい、わかりやすいものを考慮いたしました。

言語活動に関しましては、4社ともロールプレイングやディスカッション、ブレインストーミングなどを取り上げており、思考力、表現力を育む工夫がなされていてよいと思いました。その中でも2社選びました。A社とC社です。

A社に関しましては、報告書の中で多く評価の高かったものとして、学習が日常生活における実践につながるような配慮がされていることとか、図解、資料などがわかりやすく、レイアウトも工夫されている点、また考えてみよう、生かそうという項目がありまして、授業で学んだことを生かしながら思考力、判断力、表現力を養う工夫がなされているということが評価が高かったかと思います。

それから、随所に他教科マークというのがありまして、他教科の内容との関連も示し、系統的、発展的な指導を行うことができるとよいという評価も高かったかと思いました。

C社に関しましては、随所にトピックやQ&Aなどで生徒の知識、理解などを学べるような工夫がされていることや、各章の最後に、知識の習得を確認する学習のまとめというのが設けてありまして、記述式で学習の内容の定着が図れるということ、それから各項目の最後に「トライ」というのがあるのですが、それはさまざまな状況になったときを想定して、自分の意見を出し合うなどの活動で、生徒が豊かで健全な生活を目指せる発展的な内容となっていてよいと思いました。

それから、コラムや事例で扱う内容が時世に合った話題ですとか身近な事柄を使っているので、啓発的、発展的な学習ができる工夫もなされていてよいと思いました。

以上です。

#### ○委員

私も2社に絞ってまいりました。A社とX社です。絞り込んだ基本的な視点は2点ありまして、1点目は、生涯にわたって運動に親しむことができるようにしているかどうか、それから武道について、我が国固有の伝統と文化、こういった点について触れられているかどうかという点が改訂要領の要点になっておりますので、これが1点目です。

それから、2点目は、健康につきましましては、生活習慣の乱れ、あるいはストレスなどへの健康に及ぼす影響を学ぶ点が工夫されているかどうかという2点でございます。

まず、A社につきましましては、スポーツを通して健康な心と体をつくっていくということが基本的な視点に立っているというところが評価点になっております。それから、日常生活への運動の取り入れ方法等が容易に学べる内容になっているかという点でございます。

それから、2点目は、健康な生活と疾病の予防あるいは障害の防止等、健康分野の内容が充実しているかどうかという点に着目をいたしました。

以上がA社です。

続いて、X社ですけれども、「探究しようよ」というコラムがありますけれども、生徒の身近な日常生活に沿った内容になっておりまして、現実的かつ実践的な内容になっている点を評価して

おります。

それから、体育編ではオリンピックの内容が数多く掲載されておりまして、生徒への東京オリンピック、それから異文化理解等を通じたスポーツに興味関心を持たせる内容になっている点について評価をしました。4社はいずれもよくできているなと思いましたが、現時点ではA社とX社の2社に絞り込んでおります。

以上です。

○委員 4社とも本当に遜色が余りない。私自身が自分の仕事の関係もあるんですが、今、中学生がこういう知識を持ったら一生本当に、だって寿命でいえば健康寿命で10年ぐらい違うんじゃないかという観点でちょっと見させてもらったんですが、まず私はC社を選びました。

まず、このクエスチョン、問題提起があって、チャレンジ、トピックと発展していくんですが、非常にそのまま引き込まれて何でだろう、どうしてだろうというので最後まで、解決するまでそれを読み解くというような構成になっている。特に指導要領に準拠をみんなしているわけですから、項目は同じです。でも、喫煙のこと、飲酒のこと、それから感染症のこと、食事、それから運動のことについての記載が一步抜きん出ていたのがC社でございます。そして、対処しなきゃいけない発達の問題とかストレスのことにも詳しく触れているので、私はそういう記述の内容からちょっと今回はC社一本に絞ってきたというところがございます。

○委員長 各委員の意見をまとめますと、A社、C社の2社を採択候補とすることよろしいでしょうか。

(各委員同意)

○委員長 それではA社、C社を採択候補として絞り込んでいきたいと思っておりますので、各委員それぞれさらに検討していただければと思います。8月4日に1社への絞り込みを行いますので、よろしくお願いたします。

ここで、議事の進行上、暫時休憩としたいと思います。

(午前10時18分、休憩入る)

(午前10時20分、休憩終わる)

- 委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。  
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成27年度目黒区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(平成26年度分)報告書(案)について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員長 特にないようですので、この報告を受けました。  
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 平成28年度隣接学校希望入学制度の実施について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 委員長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員 いくつかお伺いしますが、議会の所管委員会報告についての説明がなかったのですけれども、それが8月の第1週目に予定されているのかどうかというのが1点です。  
それから、2点目につきましては、学校教育法の規定、できる規定の説明がありましたけれども、なぜ隣接学校の希望入学制度を実施するのか、教育委員会としてどういう判断をして、こういう目的があるから隣接学校希望入学制度を実施するんですよという目的が書かれていないですね。あくまでも、1の制度の概要では、これまでの経緯を書いているだけであって、やはり目的というものを明確に明記すべきだと思います。  
それから、3点目は、最後の説明のところ課題が山積しているという、そういう説明があったんですけれども、議会に出たときに課題の山積というものはどういうものなのかというのを聞かれたときに、どこまで説明するのでしょうか。
- 説明員 1点目は、説明を失念しました。申しわけございません。次の8月5日開催予定の文教・子ども委員会に隣接希望入学制度の実施について報告する予定でございます。それから、2点目はご指

摘のとおり、口頭での説明でしたが、法令上のできる規定を活用している制度を実施、導入するに当たっては、基本的に子どもたち、それから保護者の学校選択について、隣接にした理由としては、まず目黒区としては少なくとも地域性は一定配慮しなければいけないので最大遠くても隣接する学校ということで、地域性に配慮して認めていきたいと思いますというのが一つございます。

それから、指定校以外の学校を選べるという法令上の目的にも沿って、それぞれの学校の教育の活性化、多様化を促していく、これは各学校の魅力づくりの一助も含めたところ、これを区として推進していこう、こういったところを目的としたところがございますので、間に合う限り、資料につきましてはきちんと中身を記載した上で、ご指摘のとおり進めてまいりたいと存じます。

それから、3番目、課題の山積という表現の仕方、逆に少し言い過ぎであればまた考えてまいります。これは昨年度実施した広範囲におけるアンケートも含めて、やはり地域からはこの地域性を一定配慮はしている制度であります。地域性が希薄になっていくという指摘を多々いただいたところ、それから教職員も含めて、実際にはアンケートの結果としても、むしろ距離が近いから隣接で、近いほうの学校を選んだ保護者が今回は多かったのですが、そうはいつでも、一方で隣接を選んだために、通学の経路が遠くなっている安心・安全上の課題、それから学校によっては、この結果だけではございませんが、単学級による小規模化がそのまま改善されないような状況も説明をしておりますが、そういったさまざまところが、隣接だけが当然理由ではございませんけれども、結果としての課題という認識は持っておりますので、今後、議会報告も含めて、表現については考えてまいります。

以上でございます。

○委員長

その他ご質問等ございますか。

特にないようですので、この報告を受けました。

次に日程第4を議題とします。

(日程第4 平成27年度いじめの無記名式アンケートについて(試行実施案)(報告事項))

○説明員

(資料により説明)

○委員長

この件についてご質問等ございますか。

- 委員 無記名式だと書きやすくいいとは思いますが、そこで検出されたいじめについて特定することはできないということになるでしょうか。
- 説明員 今回の目的につきましては、誰が行ったのか、誰が被害者か、加害者かというものを特定するものではなく、今の学校の状況、クラスの状況、いじめの状況、子どもたちの心理的な状況等を把握し、その後、必要に応じて子どもたちと教育相談を行うなど、対策を講じることを目的としているところでございます。
- 委員 今のに関連しますが、3番の「先生に何か伝えたいことや相談したいことがあれば書いてください」に書いた生徒に関してはどうなるのでしょうか。
- 説明員 あくまでもこちらは無記名式になりますので、例えば自分が今、非常にいじめで悩んでいる深刻な状況を記載した場合は、深刻な状況であるということ踏まえまして、学校のいじめ対策委員会を通して協議しながら、早急にスクールカウンセラーによる面談を行うなど対策を講じ、子どもたちの、このアンケートの後に誰がこういった悩みを抱えているのかを把握し、フォローをすることは今後考えていく必要が学校はあると思います。
- 委員 細かいところで恐縮ですが、記入欄で、低学年用ですと（４）、中・高学年用だと（７）、中学生も（７）に「あなたは今されている嫌なことについて誰かに相談していますか」という設問への回答ですが、今されている嫌なことというのは前提になっていますから、これについてイエス、ノーであれば相談しているか、していないかというのがはっきりわかるのですが、今されている嫌なことがない場合の回答はどうするのかというのが疑問に思いました。
- 説明員 確かにご指摘のとおり、こちらを「いいえ」にしたときに、嫌なことをされていても相談する人がいないのか、そもそも嫌なことをされていないから「いいえ」としているのかということについては判断つきにくいという状況になっているところでございますので、こちらの設問につきましては、そういった学校が状況を把握することを目的としているため、そこはどうなんだろうということでは項目としてもう一度検討が必要かと思っておりますので、考えさせていただきます。
- 説明員 補足でございますが、一応この（４）、それから中学年以上の（７）については嫌なことをされていることを前提にしてあつ

て、当然嫌なことをされたことがないお子さんは上の(1)、(2)、(3)について全ていいえがつくわけです。その上で、そうなる(4)の設問が非常に難しくはなりますけれども、その場合は当然そのお子さんは嫌なことはされていないかという部分はちょっと解釈をしていくしかないかなと。多分、特に小学生についてそういった質問が出るかとは思いますが、そこは事前にそういった部分が起こり得るということを学校に説明をした上で実施をするようアナウンスをさせていただこうと存じます。

以上でございます。

- 委員長      その他ご質問等ございますか。  
                    特にないようですので、この報告を受けました。

(資料配布 ・平成27年9月行事予定)

- 委員長      ほかにございませんでしょうか。  
                    ないようですので、本日の定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

(午前10時58分閉会)